

大地の恵み

blessing of the earth

「共に語ろう！ あきたの地域づくり」

vol.8
H19.3

— 地球人フォーラム 2006 —

- 2006秋田県中山間ふるさと水と土現地見学会
- 水土里の郷・平鹿平野 わくわく探訪 ～土地改良施設巡り～
- みんなで守る地域の資源 ～農地・水・環境保全向上対策～
- 水路を考える！— 農業水利施設と私たちの暮らし —
- データで見る都市と農村 ●平成18年度活動状況報告



地球人
フォーラム
2006

『共に語ろう！あきたたの地域づくり』



プログラム

■主催者代表挨拶 高畑 進
(あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議会長)

■平成18年度秋田県
21世紀土地改良区創造運動表彰式

- ◎県知事賞
 - ・水土里ネット稲川(稲川土地改良区)
- ◎奨励賞
 - ・水土里ネット湯沢中央(湯沢市中央土地改良区)
 - ・水土里ネット稲川(稲川土地改良区)
 - ・水土里ネット山田五ヶ村(雄勝郡山田五ヶ村堰土地改良区)

■事例発表・活動報告

- ◎21創造運動活動報告「水土里ネットの取り組み」
・水土里ネット稲川
- ◎わくわく探訪・感想発表
 - ・黒澤信人さん(横手市立十文字第一小学校5年)
 - ・佐藤美江さん(秋田市立勝平小学校5年)

■中山間ふるさと水と土フォーラム

- ◎「Akitaふるさと活力人養成セミナー」の取り組み
 - ・熊谷嘉隆氏(国際教養大学地域環境研究センター長)
 - ・鈴木奏子氏(北秋田市阿仁支所観光振興課主任)
 - ・泉谷衆氏(秋田県農林水産部農山村振興課主任)

■基調講演&ライブ

- 演題 「秋田まるごと日本のふるさと化計画」
～秋田の自然・施設・県民があなたのふるさと・実家・家族になります～
- 講師 伊藤 秀志氏(歌手・タレント)

と き:平成18年9月10日(日)
と ころ:秋田拠点センター・アル☆ヴェ(秋田市)

主催 秋田県
あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議

主管 秋田県農林水産部農山村振興課
水土里ネット秋田(秋田県土地改良事業団体連合会)

シンボルマークについて
緑豊かな地球を守り、未来へ手渡したいという地球人会議の願いを象徴しています。緑の地球をシンボリックに表し、芽生えた新芽は、会員一人一人の地球に対する優しい思いやりの心を表現しています。

表紙写真:第8回美しく豊かな農村づくり写真コンクール
入賞作品「実りの秋」

主催者 代表挨拶

高畑 進
あきた 食料・環境・
ふるさとを考える
地球人会議会長

本日は休日にもかかわらず、このように沢山の方々からご参加頂き、誠に有り難うございます。九月に入って漸く涼しくなりました。今頃ですが、今年は冬の記録的な大雪に続いて、夏はまた近來にない猛暑となりました。何れも地球温暖化の影響とする説があります。地球全体の環境バランスが崩れつつあることを実感する現象が出ていていると思います。

北海道の富良野に住む作家倉本聰氏は、アイヌの学者の先生から次のようにいわれてショックを受けたと最近の講演で述べられています。それは「アイヌは昔、自然がくれる利子の一部で暮らした。日本人は自然という元金にも手をつけた。元金にも手を出せば元金自体も減る。何故わからないのか」と。傾聴すべき言葉だと思います。

ご承知のとおり、農業・林業は、生命を育む貴重な食料を生産するだけでなく、水資源を涵養し、またこれを守る一方、洪水や山崩れ防止するなど、国土の維持保全に大きな役割を果たしています。また、水田や水路は様々な動植物の命を育み、生態系の維持に貢献するとともに、消防、消雪あるいは生活用水として利用されたり、また、せせらぎとして街の景観にも潤いを与えてくれています。

さらに農村は、稲作と結びついた様々な伝統行事や農村文化の伝承のほか、豊かで、のどかな田園風景など癒しの場を提供してあります。日本のお祭りは必ずといっていいほど農業と関係しており、この祭りの由来などを大人は子供たちに教え、農林業や農山村がいかに大切なものを伝えていく責任があるものと思います。

一方、農村の現状をみてみますと、農家と非農家の混住化や、後継者の不足と高齢化が進んでいるほか、ゴミの不法投棄、水質の悪化、耕作放棄地の増加など環境の悪化が進んでおり、先程申し上げたような様々な多面的機能を果たしている水と土といった地域資源を、農業者だけで健全に維持管理していくことが極めて困難になってきております。

こうした中、皆様ご承知のとおり、今農政は戦後第二の大変革を迎えるに至っております。昨年十月、新しい食料・農業・農村基本計画を具現するための、三本の柱からなる農政改革大綱が制定されました。

その柱の第一は、担い手の育成であり、第二は経営所得安定対策、そして第三は、農地・水・農村環境保全向上対策であります。このうち、第三の農地・水・農村環境保全向上対策では、来年度からの新規事業として、国民共有の財産である農業用水路を健全に守るとともに、良好な環境の保全を図るために、それぞれの地域の中で、農業者ばかりではなく、町内自治会、子供会、敬老会、婦人会あるいはPTA組織、消防組織など地域住民が一体となって協議立案し、お互い役割を分担し、連携しながら施設の維持管理と環境保全の活動に当たっていくことにし、それに要する経費について国、県、市町村がともに応分の支援を行うこととしています。

ご承知のように、八年前に発足した当地球人会議は、食料・環境・ふるさとの問題について農業生産者をはじめ、広く消費者や都会の人たち、子供たちと共に考え、共に学び、発言し、そして行動を起こす、このような目的をもって組織されたものであります。ここにごてて漸く国の施策もこのような方向で動き出したということからは、私どもの運動の成果であるとも存じているところであります。

本日は、こうした活動に力を注いでこられた団体を表彰申し上げ、その活動内容の発表していただくとともに、小学生を対象とした「わくわく探訪」に参加した生徒さんから、水の大切さについて考えたことを発表してもらおうことにしております。

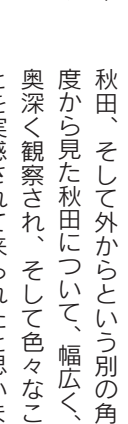
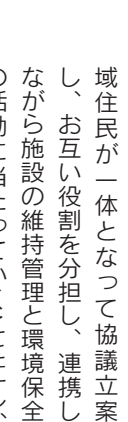
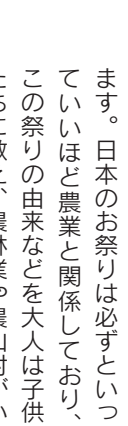
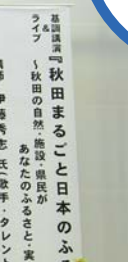
今年、昨年のこのフォーラムでのアンケートによる参加者皆様からのご要望を踏まえ、これまでと趣向を変えております。基調講演につきましては、旧由利郡大内町のご出身で、十八歳の頃から名古屋・東海地方で歌手・タレントとして活躍されている伊藤秀志さんにお願いたしましたことでもあります。伊藤さんは、内から見てきた秋田、そして外からという別の角度から見た秋田について、幅広く、奥深く観察され、そして色々なことを実感されて来られたと思えます。

本日は、秋田は日本の古里になれるのか、そのような観点から「秋田の地域づくり」についてお話しして頂くことになっております。申すまでもなく大ヒットしました秋田バージョン「大きな古時計」を中心とするライブもセットしておりますので最後までお楽しみ頂きますながら進めてまいりたいと思っております。

以上、開会に当たってのご挨拶といたします。

以上、開会に当たってのご挨拶といたします。

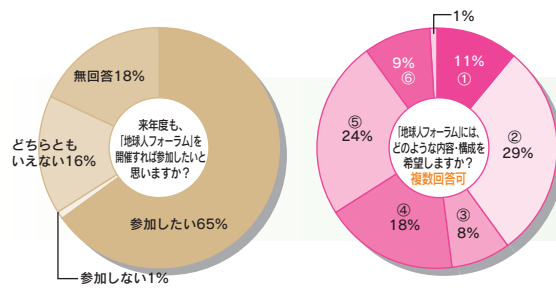
地球人フォーラム2006
2006 秋田県中山間ふるさと水と土フォーラム



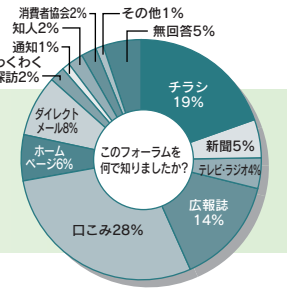
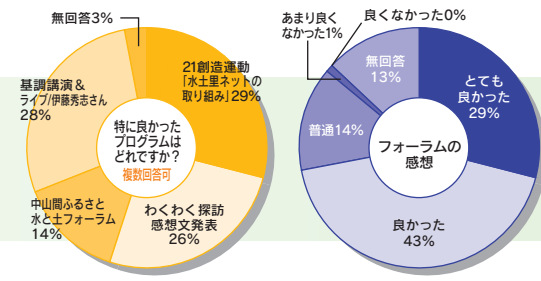
地球人フォーラム2006 共に語ろう!あきたの地域づくり

伊藤秀志Talk&Live

「地球人フォーラム2006」アンケート結果



- ① 有識者による基調講演など
- ② 県内の様々な分野で活躍している方々の紹介(事例発表)
- ③ 有名人(芸能人)による講演
- ④ 体験学習や実践活動を行っている小学生の意見発表
- ⑤ 歌や芝居などのアトラクショナルなもの
- ⑥ パネルディスカッションなどの討論



「やあーどうですか、5分と持たないでしよう」というの。そんなにするんだしたら、俺だったらまず、この雪のかまぐらはいらない。発砲スチロールで作って、会館全体を薄く寒くしておいて、そこで甘酒を飲んだら丁度いいくらいの寒さにしておくの。それで甘酒一杯千円で売る。お餅500円。その方がお客さんも雰囲気味わえるし、よくない?んだへえ。じゃ観光客の立場になって「あー、寒かったー、おつ」じゃ何も残らないじゃん。本当のかまぐらの時も「あんな寒いとこはもういやだ」とか、そうじゃなくて外歩いてあの中に入るからほつこりするんであって、冬だつてあの中暖つかくないですよ、かまぐらの人、ね。

VOICE 参加者の声

- 秋田だけでなく他県のことを知っている伊藤さんの講演はおもしろかった。もっと秋田のよさを自分達で発見していければよいと思った。(女性・10代・会社員)
- 初めて参加したので、内容は新鮮に聞こえた。息の長い取り組みが必要と思われた。「土着性」がKeywordになるような気がする。(男性・60代・会社員)
- 伊藤秀志さんの「大きな古時計」を生で聞きたいがために参加したのですが、皆さんの活動報告を聞き感心させられました。黒澤君の発表、すばらしかった。5年生にしてあの発表、将来地域で頑張る秋田を活性化してもらいたいと思いました。また、「Akitaふるさと活力養成セミナー」というのを初めて知りました。(女性・50代・団体職員)
- 内容的に素晴らしいが、会場も良いのですが、駐車料金が少し高つくことが…難に思います。(女性・60代・団体職員)
- 秋田ってとこをすごく感じました。すごく心に響いた1日でした。私達も自信をもっと持とうと思います。(女性・20代・公務員)
- ふるさと水と土の地域づくり活動が着実に地域に広がって来ていると感じた。真の豊かさとは人と人との繋がり、自然と一体のスタイルが大切と思う。真の豊かさを発信すべきである。(男性・50代・公務員)
- 大変よい企画だと思います。去年も参加しましたが、秋田市だけでなく、県南や県北などで(移動中山間ふるさと水と土フォーラム)行ったら、地域住民のふるさと意識が深まり、意義深くなると思います。伊藤秀志トーク、持論とピッタリ共鳴しました。(女性・70代)
- 水と土ネット稲川の小学生との活動は、これからの秋田の農業を考える上で、とても大切だと思いました。高齢化や環境問題の点から、将来を見据えた活動のあり方を考えていかなければならないですね。(女性・30代・会社員)

中にはみな知らないから、「いやーあんなのいいね」と言っているんですけど、求めるものはああいふことです。だから代表的なものをポンポンと見たいわけで、なので秋田へ遊びに来いというよりは、秋田県と年間契約で、秋田県が実家になってあげるから、あんだ達は年に4回、来なくてもいいけど、まあ来たいときには山の下刈りとか特別にお奨めなので、そうきつい仕事させんなら、あいつらには、農業体験とか嘘いって。いやだめよ、そういうことね、いちいち「いや、それは」と思ったら駄目!



信州なんか凄いです。「大学生のアルバイト 牧場で大募集」牛の世話の好きな人だれも来ない。「ベットのトリマー大募集」うわーと来る。で、何をやらされているかと言っと、牛の背中流し。どうです、こいつこいつい方の違い。こいつこいつに、騙せとは言いませんが、基本的にそんな考え方を持っていた方がいいと思うんで、旅行に1回来てもらっただけじゃなく、一年契約してもらって、10万円コース。10万円コースはね、1回

はなにかキリタンゴ食べに大館に来てもいいし、男鹿半島を見に来てもいい、スキーに田沢湖に来てもいい。それであと4回はなんか送りますよ、稲庭うどんとか季節のものを送るよ、そういうのが1年間ずっと通して秋田が実家のようなものになってあげるから「子供だけ行きたいんだけど、いいですか」という時は、「はい、どうぞ」というよ、どつかの家のホテル、道の駅とか、こういう施設、公のものも、個人のものも、そういう商売やっていな人もみんな一緒になって、そうやって年間つなぎ止めるようなことを10万円コース、20万円コース、30万円コース。竿燈も見れます、あそこも行けます、こも行けますというよつなことを全部一緒にして、ここを実家だと思ってください、面

白かったら来年また延長してくればと。100万円コースは知事室に入れます、知事を「寺田君」と言える、君呼びできる、そのぐらいのことはさせなきて知事だつてせにやあかんわ。というよつな、観光に来てくださいとだけ言っているも結構きつたらどうという気がするんですよ。

「故郷になってあげます」その時に大事な言葉ですよ、ええ。「まず、つかれたへ」と言った時の相手の人が感じる気持ちがあるかなかわかりません。

これはね、僕が「古時計」を歌って、東京向けにわかってくれなくて、東京向けにわかってくれなくて歌ったんじゃないんです。おらの同級生聞いて「んが、まだばがくしえ歌うだつているな、よくそんな古くしえ言葉、今もわがる」と言われてた歌った

だから案内ね、言葉が持っている重さとか、僕たちが気が付いていないふるさとの言葉のあや、半端でこつやつてあるんじゃないものね。本当に寒いから「やむさ」といふ言葉なんです。あんな地吹雪なんか無かったら「やむさ」といふ言ひ方してないと思いますよ。秋田は田んぼの中いたるところに風除けあるじゃないですか、それほど風がひどいということですよ。それで「さびい」なんです。さびいといふて来た人たちの気持ちが残っている言葉なんです。迫力はやっぱりねちゃんと大阪の人にも九州の人にも通じるんですよ。



中。あとなまはげ館も似たようなことあると思うんだ。本当に稼ごうと思つたら、ただなまはげを並べない。なまはげは1個、2個あればよい、空港にもあるし。だから何をやるかというとお座敷を作っておく、5人家族用。それなまはげの本当の体験。ただし、なまはげは本当に子供を泣かせます。僕の時もそうでした。ちっちゃい時は怖くて、なまはげわつーと来たときは泣きましたけども。だんだん大きくなつてくると「やーい、よし君の父さんだ」。へいーとか言つて、すると向こうも何軒も廻つて途中で酒飲んで来ますからね、本当に叩くんだよね。すると怖いんじゃない痛くて泣いたんだよ、僕らの時は。そういうのを都会の力キたちに味わせる。で、注意書きして「謝つて、なまはげさんに退散してもらつては、なまはげの工サが必要ですよ」。そこに1合1200円の大吟醸とか置いておく、まんさくの花とか、ね美酒爛漫。大吟醸のほうが早く退散しますとか。なまはげの工サ。だから商売で考えたら、だつてね

秋田はあなたの実家

ちよつと違うことを考えた方がいいなと思つて僕が言っているのは、秋田県で一所懸命がんばつて作つたあの「釣りバカ日誌」、どういふふうに映つたか皆さんご覧になりましたか?

秋田県からも宣伝に来て、名古屋で僕の番組でもやりました。「是非みなさんも秋田に行つてくださーい、こつこつとこつこつと」。でもあれは浜ちゃんが男鹿半島で釣つて、じゃ「料理してくれよ」と言つて入つていくのは角館の店ですよ。俺はわかるけど、名古屋の連

青森の人たち何を売り物にしてると思つて。恐山ですよ。地獄の話を売り物にしていくんですよ。それともに対抗して岩手なんか、座敷童の出る宿、2年先まで満員ですよ。おつて、知りませんでし

た?だつて本当なら座敷童なんて怖いんだけど、でも座敷童の出た家は繁盛するという伝説にむりやり作り上げて、ふつーならお化けですよ、これ。それが出る宿だといつて、それに会いたいという都会の人たちに2年先まで満員だつたら、秋田もみんな出せばいいじゃない、座敷童を。



「やあーどうですか、5分と持たないでしよう」というの。そんなにするんだしたら、俺だったらまず、この雪のかまぐらはいらない。発砲スチロールで作って、会館全体を薄く寒くしておいて、そこで甘酒を飲んだら丁度いいくらいの寒さにしておくの。それで甘酒一杯千円で売る。お餅500円。その方がお客さんも雰囲気味わえるし、よくない?んだへえ。じゃ観光客の立場になって「あー、寒かったー、おつ」じゃ何も残らないじゃん。本当のかまぐらの時も「あんな寒いとこはもういやだ」とか、そうじゃなくて外歩いてあの中に入るからほつこりするんであって、冬だつてあの中暖つかくないですよ、かまぐらの人、ね。

平成18年度 地球人会議 活動状況



1 会議・イベント等の開催

●平成18年度地球人会議・幹事会

内容: 運営委員会提出案件の協議
日時: 平成18年5月17日(水)
場所: 水土里ネット秋田・会議室(秋田市)
参加者: 幹事4名

●平成18年度地球人会議・運営委員会

内容: 平成17年度収支決算、平成18年度事業計画等の承認
日時: 平成18年5月26日(金)
場所: 水土里ネット秋田・会議室(秋田市)
参加者: 運営委員11名

●「水土里の郷・平鹿平野 わくわく探訪」 ～土地改良施設巡り～

内容: 秋田市と横手市の児童・保護者が参加して、農業水利施設や農業農村整備事業を見学。用水や農業水利施設の役割、大切さを学習する。
日時: 平成18年7月1日(土)
場所: 皆瀬頭首工、成瀬頭首工、越前集水渠、皆瀬幹線水路、木戸五郎兵衛村、まんが美術館(横手市増田、十文字、雄物川)
参加者: 56名



●地球人フォーラム2006

内容: 「共に語ろう! あきたの地域づくり」をテーマに、農業・農村の持つ地域資源の再発見と地域振興の新たな展開について考える。
日時: 平成18年9月10日(日)
場所: 秋田拠点センター・アルヴェ(秋田市)
参加者: 約280名



2 会員への情報提供

●県・水土里ネット等が主催する各種行事に関する情報提供

●会報の発行
「大地の恵み vol.8」を会員に配布(発行予定: 平成19年3月)
●インターネットを利用した情報提供
<http://homepage2.nifty.com/akidoren/>(水土里ネット秋田)
<http://www.inakajin.or.jp/chikyukaigi2.html>(全国水土里ネット)
<http://www.pref.akita.lg.jp/fpd/>(秋田県農林水産部)

3 他団体が主催する行事との連携

●「秋田県21世紀土地改良区創造運動 表彰選考委員会」(連携)

内容: 「秋田県21世紀創造運動表彰」の選考審査を行う。
日時: 平成18年6月2日(金)
場所: 水土里ネット秋田・会議室(秋田市)
選考委員(運営委員): 佐藤万里子、長谷山 光、藤井 明

●秋田竿燈まつり(参加)

内容: 秋田竿燈まつりに関して、竿燈の出竿及びPR用ポストカードの配布。
日時: 平成18年8月3日(木)～6日(日)
場所: 秋田市竿燈大通り
参加者: 24名(水土里ネット秋田職員)



●「農業農村整備フェア」(連携)

内容: 種苗交換会の協賛行事である「農業農村整備フェア」に協力。
日時: 平成18年11月1日(水)～11月7日(火)
場所: 潟上市天王総合体育館前(特設テント)
来展者: 約7,500名



4 その他

- 「21世紀土地改良区創造運動」との連携
- 水土里ネット秋田が行う「水土保全強化対策事業」との連携
- 他団体との連携の強化
- 農業関係者以外の会員募集の強化

「2006秋田県 中山間ふるさと 水と土現地見学会」を開催



棚田ライブ

平成18年9月9日、秋田県は能代市・藤里町・三種町の共催、水土里ネット秋田・能代東土地改良区の後援により「2006秋田県中山間ふるさと水と土現地見学会」を開催した。農山村のもつ魅力や資源を再発見し、それを中山間の地域づくりに活用していくことを主な目的とし、翌10日に秋田市ALVEで開催した「2006秋田

共に語ろう!
中山間の地域づくり
～美しき水土里の郷・
屋根のない
ふるさと博物館～

地産地消ランチ



の方々が、我がふるさとの「自然・人・文化」の素晴らしさを再発見、再認識することができたということは、今後のふるさと資源を生かした地域づくりに大きなヒントとなったであろう。見学会は大きく3つのブロックに分けて行なった。始めは藤里町の白神エリア。世界自然遺産白神山地の森の恵みを手にしながらかつてきたこの地域の農業に触れあう内容である。世界遺産センターではスタッフから森の恵みを学び、移動するバスの車内では地域の方々から周囲のガイドを受けながら、白神の

その後の棚田ライブ。創作カリン工房の2名によるカリンパトパーカッションの美しい音色は、周囲の沢や虫の音、黄金色に色づき首を垂れ始めた田んぼを抜ける風の中に豊かに響き渡り、参加者の心だけでなく田んぼの心をも揺さぶったに違いない。

多賀院



その後は、最後のメニューとなる三種町森岳エリアへバスで移動。農村総合整備事業で生まれ変わった芸術会館では、江戸中期からの歴史を持つ「森岳歌舞伎」を観賞。本来は土演目ではなかまた宵宮ではない暑い日差しの中で、役者さん達の気迫あふれる演技には多くの拍手が送られ、稲作文化に根ざした伝統芸能の持つ強烈なエネルギーを参加者は感じていたに違いない。

県中山間ふるさと水と土・地球人フォーラム」の現地体験版として、秋田県中山間地域土地改良施設等保全対策事業(ふるさと水と土事業)で実施したものの。現地のキャパシティや環境へのインパクト等を考慮し、例年100名規模で実施してきたものを、今年度は50名程度としたが、県内外(埼玉、東京)から多くの申込があった。

参加者はもちろんのこと、現地スタッフとして協力した地元

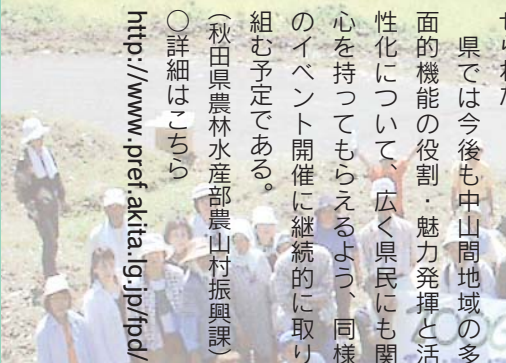
当日振る舞われたミネラルウォーター「白神山水」とほぼ同じ水源からなる清冽で豊富な地下水を用水源としている横倉棚田に移動。ここではお米、ワサビ、セリの栽培や、イワナ、比内地鶏などを育てており、採れたてワサビの直売のほか、ここをたつた3人で維持している農家の方から、四囲が白神山地に囲まれた美しい棚田での収穫の喜びや感想を伺った。



森岳歌舞伎

2つ目は能代市の松山エリア。地元グリーンツーリズム協議会の方々により用意された参加者お待ちかねの地産地消ランチでは、手打ちの松山そば、地産米のおにぎり、天然イワナ、自家製のがつこなどをいただき、直売も行われた。古民家を改造した農家レストランの縁側からはヤギが草をはみ、イワナを焼く煙がたなびく日本の原風景的な景色が、食べ物だけでなく五感で参加者を楽しませた。

県では今後も中山間地域の多面的機能の役割・魅力発揮と活性化について、広く県民にも関心を持ってもらえるよう、同様のイベント開催に継続的に取り組む予定である。(秋田県農林水産部農山村振興課) 詳細はこちら <http://www.pref.akita.lg.jp/fpd/>



頭首工ってなまぐさ？



皆瀬頭首工での記念撮影

7月1日(土)、農業・農村の多面的機能や、農業水利施設の役割・重要性を子供たちに学んでもらおうと、「水土里の郷・平鹿平野 わくわく探訪」が平鹿管内(横手市周辺)で開催され、秋田市と横手市の小学校児童と保護者合わせて56名が参加した。

「わくわく探訪(土地改良施設巡り)」は、子供たちに農業水利施設などを見学してもらい、農業・農村について理解と関心を持ってもらうのが目的。今回は、初めて平鹿管内での開催となり、水土里ネット雄物川筋・秋田県雄物川筋土地改良区の全面協力により準備が進められ、東北農政局平鹿平野農業水利事業所など多くの関係機関の協力を得ながら開催された。この日は、現在国営事業により全面改修工事が行われている「皆瀬頭首工」、同じく国営事業で部



魚道を見学する子供たち

分改修が予定されている成瀬頭首工、約70年前に石積みで造られた大規模な湧水池の「越前集水渠」、市街地で開水路から暗渠水路に切り替わる「皆瀬1号幹線水路」、昔の民家をそのまま移築展示している「木戸五郎兵衛村」など多くの施設を探訪した。

始めに、現在全面改修工事が行われている皆瀬頭首工(横手市増田町)を見学。突然の大雨に一時中断するハプニングもあったが、頭首工の役割や仕組みなどの説明を聞き、仮設の棧橋をみながら歩きながら川を渡り、工事中の頭首工の隅々を見学することができた。また、子供たちが楽しみにしていた皆瀬川の「生きもの調査」も行われ、頭首工の魚道に仕掛けられた籠を引き上げるといういろいろな種類の魚が数十匹、飛び跳ねる姿に子供たちの歓声がわき上がった。普段なかなか見ることが出来ない魚を、一匹ずつ配布した「魚の図鑑(下敷き)」で見比べる



図鑑(下敷き)と魚を見比べる子供たち(皆瀬頭首工)

が熱心に観察していた。午後からは、成瀬頭首工や皆瀬1号幹線水路のほか、先人の苦労がうかがえる越前集水渠(湧水池)や歴史を感じさせる木戸五郎兵衛村などを見学し、国営事業所や土地改良区などの担当職員が案内しながら、機能や役割について説明をおこなった。



担当者から説明を聞く参加者・皆瀬頭首工にて

頭首工ってなまぐさ? から始まったこの「わくわく探訪」も、普段は危険で立ち入りが禁止されている場所もあり、このような土地改良施設を間近で見ることが初めてという子供たちがほとんどだった。また、頭首工や用水路、湧水池などの各施設では担当者からの説明に熱心にメモを取りながら聞き入っている姿が多く見受けられ、参加者の関心の高さがうかがえた。地球人会議では、今後もこの「わくわく探訪」を通じて、子供たちの「水」に対する理解と関心を広める活動を推進して行きたいと考えている。

なお、この「わくわく探訪」の様子は、水土里ネット秋田のホームページ(<http://homepage2.nifty.com/akidoren/>)でも詳しく紹介しています。

「地球人フォーラム2006」で、発表された2人の感想文を紹介します。

水はどこへ



十文字第一小学校5年
黒澤信人さん



祖父が通っている病院の前を用水路が流れています。田植えの頃になるとすごい水の量になり、こわくなるくらいです。冬の工事でその用水路にふたがされ、今は安心です。遊び場にもなります。その水が皆瀬川から流れてきています。これは知っていましたが、頭首工というものがあって、水量を多くして流してあげるという仕組みが初めて知りました。

稲の成長には大切であるこの水でしたが、それがよく分かりました。ふしぎに思ったことは、湧水池と呼ばれるものです。S字が走った時など、これまで何回か見たことはありましたが、これが田に送られていく水だとは考えてもみませんでした。池を囲んでいる田よりも低いところに水がためられているの、どうやって、どう田に流れていくのだろうかと思いましたが、昔は皆瀬川の水量も多く、川がら湧いてくる水もあったそうです。これだけ大きい穴を掘り、そして一段に石を積んだ昔の人たちの努力は大変だったと思います。それにしては、この水を利用しては、かなり疑問です。

水土里の郷をたずねて

七月一日土曜日、私は友達と待ち待った「水土里の郷・平鹿平野 わくわく探訪」に出かけました。見学の内容は頭首工や湧水池、木戸五郎兵衛村などに行き、各工場の役割を知ることです。私が一番興味を引いたのはやはり頭首工のことです。行く前は頭首工なんてタムのような物だろうと思っていましたが、実際はもっとかたが物だということとが、行って思いました。頭首工とは、雨が少なく、川の水位が低くなるとなかなか水を取り入れることができないので、川をせき止め水位を少し上げて取水口に、入れやすくして水を取り入れます。つまり、川から田んぼに水を届け、用水路の一番最初に位置し、用水路へ水を流すことをしています。また、頭首工には、供水吐、土砂吐という水量を調整する水門、川に住んでいる魚が自由に移動できる魚道があります。魚用の道が

あるとは思いませんでした。この探訪を通して農村の良いところ、各世帯の便利さを知ることができたし、楽しく学ぶこともできたのでよかったです。次にこのような企画があれば参加し、探訪で分かったことを学校の学習でも生かしていければいいなと思います。

勝平小学校5年
佐藤美江さん

集落総出。
知恵と工夫のむらづくり

嶋田新田地区は雄物川、西馬音内川、新町川の3川の合流地点に位置しており、近年、水田農業経営確立対策を契機とした大豆と、町の重点作物8品目(トマト、スイカ他)の作付けが増加し、土地利用型の営農活動と認定農業者を中心とした担い手の育成が進められています。

当地区は、農用地面積は93ha、総戸数58戸うち農家戸数50戸(担い手戸数16戸)の純農村型地区です。

元来の湿潤地で農地排水が地域の課題であり、基盤整備事業の実施と排水機場の設置に加え、地域共同作業によるさまざまな知恵と工夫によって、今日まで地域の資源が支えられてきました。

平成17年には共同敷地の外周136mの法面浸食による土砂流入から水田を守るため、町道改良工事などで不要となった側溝を譲り受け、約1年2ヶ月の歳月をかけた地域住民による直営施工で法面保護工の完成に至りました。

また、耕畜連携により堆肥の供給体制を作り、本地区を中核として減農薬・減化学肥料の米作りを進め、特別栽培米の「あきたこまち」を出荷している。

地域の発想によるこうした取組は、コストの軽減はもちろんのこと、地域住民の親近感や信頼関係を深め、次なる地域作りのアイデアへと発展していきます。

地域でできることは行政に頼らず地域の力で解決する一資源保全を素材とする地域振興の原点がここにはあります。

(平成18年3月)



腐材を有効活用した蓋掛け

地域
リーダーの声

代表の藤原登代治さん



「自分たちの手で工事することで親近感や愛着がわき、住民同士で地域づくりを進めようという思いも強くなる。今後も地域づくりのアイデアを考えていきたい」

(H17.6.11秋田魁新報)

「行政で整備してもらえれば相当の費用がかかるが、住民同士でアイデアや労力を出し合えばお金をかけずにやれるし交流も深まる。大切なのは自分たちの住む場所をさらに良くしようとする気持ち」

(H17.12.5秋田魁新報)

農地・水・環境保全向上対策の概要

農村の農地・水・環境を守り、質を高める地域共同の取り組みの支援が始まります。

1 共同活動(資源保全)への支援

水路やため池などの施設の保全や生態系保全、景観形成などの効果の高い活動に地域で取り組む場合には、共同活動への支援が受けられます。

2 営業活動への支援

地域共同への取組に加えて、化学肥料と化学合成農薬の5割低減等の環境にやさしい農業に地域で取り組む場合には、営業活動への支援も受けられます。



農地・水・環境を守る

農地の価値は、農業を支えることだけではありません。古くから伝承されてきた文化、棚田の美しい景観、バイオマスの利用による地球環境の保全など、多面的な役割を担っています。

日本の農村は、水路が毛細血管のように張り巡らされています。その水は、農作物を養い、美しい景観を作り、様々な生き物が暮らす場となってきました。このような美しい農村は、そこに住む人たちに守られてきました。「普請」という言葉をこ存じてすか？春彼岸や秋彼岸の頃など定期的に、一戸から一人ずつ出て、村内の道路や水路、ため池などの保全修理、草刈りや除草などを共同で行う勤労奉仕の年中行事のことです。「普く人々に請う」という意味で、多くの人々に呼びかけて労役についてもらったことに由来します。農村の人たちは協力して地域の資源を作り上げ、守ってきたのです。

農村の資源には、食べ物を生み出す役割だけでなく、洪水や土砂崩れを防止し、気候を緩和し、心の安らぎをもたらすといった役割があります。このような役割は「多面的機能」と呼ばれています。この多面的機能の経済的価値は少なくとも8兆9千億円(平成15年)と同程度の規模になります。その農業集落で変化が起きています。農家の高齢化は全国平均の20年先を進んでいるといわれています。農業集落の混住化も進行しており世帯のうち農家は11%に過ぎません。このようなことから資源を守る地域の「まとまり」が弱まっているのです。将来にわたって共同活動を続けていくには、農業者だけでは限界に達しています。地域住民、自治会、関係団体などが幅広く参加する活動組織を立ち上げ、施設を長持ちさせるような決め細やかな手入れや農村の自然や景観などを守る地域共同活動が必要になっていきます。

※日本学術会議答申(平成13年)

農業の多面的機能の経済価値

項目	評価額
洪水を防ぐ	3兆4,988億円/年
川の水の量を安定させる	1兆4,633億円/年
雨水を地下水として蓄える	537億円/年
土が流れ出すのを防ぐ	3,318億円/年
土砂崩れを防ぐ	4,782億円/年
水をきれいにする	123億円/年
雪さをやわらげる	87億円/年
旅行など心の安らぎをもたらす	2兆3,758億円/年
(参考)農業の総産出額(平成15年)	8兆9,261億円/年

資源を保全する活動



地域コミュニティが支える地域資源

集落・水利組合・土地改良区などの地域社会システム・地域共同活動などの管理ルールによって資源を保全する活動が行われています。

農業水利施設と私達の暮らし

水路や農業水利施設を守ることは、豊かな暮らしを守ることです。

美観や環境の悪化 人手不足で機能低下 ゴミの不法投棄 水を通すところ



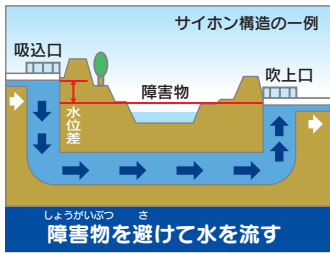
力を合わせてなんとかは！
こんなになっちゃ、いけないよ



これじゃ水が流れないよ！
こんな状況の水路も多くなっているよ。



捨てたりしちゃダメだよ！
ゴミが増えて、困ってるよ。



誰が考えたんだらう？ スゴイね！

水をためるところ 水を分けるところ 水を取るところ



水路やため池などの危険な場所では遊んじゃダメだよ！



ここで分かれるよ



農家の高齢化が進んでいます。 農村の混住化が進んでいます。 サイホンといい水路をつなぎます。

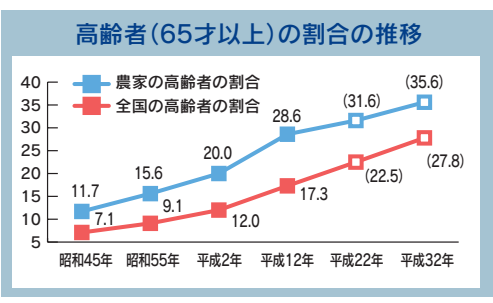
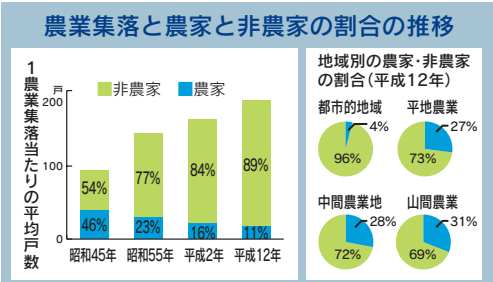
農村地域ではまた、後継者不足による農家の減少、高齢化のため、人手不足となり、手入れの行き届かない水路が増えています。放置された水路は荒廃し、本来持つべき数々の優れた機能が、著しく低下してしまいます。

近年、農村地域では都市化、農家・非農家の混住化が進んでいます。これにともない、地域住民としてのモラルの低下が見られ、不法投棄などの水路のゴミが増えています。水路を維持・管理する者にとっては、深刻な問題です。

サイホンは、水路を障害物を避けて通す場合に用いられます。吸込口を吹上り口より高くして水位差を設けると、通水管に満ちた水が下流へと流れます。川をくだるものを「伏越」、水路橋のように川をまたぐものを「上越(通称)」といいます。

住民参加の輪が広がっています。

水路のゴミは、美観を損ねるばかりか、水質を悪化させ、環境も汚しています。旧来、水路や農業水利施設の維持・管理は、農家の組織である「水土里ネット」(正式名称「土地改良区」)が行っていましたが、近年、人手不足により、増え続けるゴミ対策には苦勞しています。そこで今、水土里ネットでは、各地で、農家と地域住民が連携した美化活動を展開しています。年々参加者が増え、活動の輪は確実に広がっています。



私たちの暮らしの中で、水路や農業水利施設は「こんな」役に立っています。

- 田んぼに水を運び、米を作ります。**
今も昔も、農業用水の使用量の大半を水田かんがい用水が占めています。
- 畑の野菜に水を届けます。**
ハウス栽培の普及により、畑地では、年間を通して水が使われます。
- 水に親しむ場を提供します。**
安全に整備された親水施設は、水にふれ、心なごむ場となっています。
- 生活用水として利用されます。**
清浄に保たれた水路の水は、農作物や農機具の洗浄に使われます。
- 防・消火用水にも使われます。**
水路やため池の水は、防火用水、また消火用水としても活躍します。
- 町並みを美しく演出します。**
維持・管理の行き届いた水路は、町の景観にも潤いをもたらします。
- 行事や憩いの場になります。**
水路沿いに植えられた桜並木が各地で花見の名所になっています。
- 子供たちの学習の場になります。**
水田での田植え体験、水路の生きもの調査など、学習の場は豊富です。
- 生き物の命を育みます。**
ため池や水路にはさまざまな生きものがすみ、生態系をつくっています。
- 雨水を排水し、洪水を防ぎます。**
水門の開閉により増水時の排水に水路を活用、洪水を未然に防ぎます。

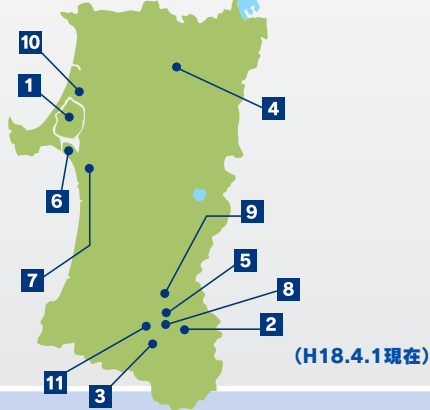
「水路と暮らし」を見つめましょう。

農業用水路は、非農家の人たちにとっては、関心の薄いものかもしれません。しかし、水路は農業だけでなく、防火に利用されたり、洪水を防いだり、子どもたちの学習の場になったり、人の心を癒したりと、私たちみんなの暮らしにさまざまな役に立っているのです。地域を流れる水路に目を止め、住民共有の財産として認識を新たにしていれば幸いです。

大切な水路や農業水利施設を健全に保全しましょう。

私たちが口にする農作物の生育に使われる農業用水は、安全な食料生産と人々の健康な生活のためにも、清浄であることが求められます。また、その大切な水を運ぶ水路や農業水利施設は、常に健全に保っておく必要があります。お近くの水路で、清掃や草刈りなどの活動が催されましたら、ぜひご参加ください。

- 1 水土里ネット大湯
<http://www.ogata.or.jp/~dokai/>
- 2 水土里ネット稲川
<http://www17.ocn.ne.jp/~itk/>
- 3 水土里ネット雄勝
<http://www15.plala.or.jp/midorinet-ogati/index.html>
- 4 水土里ネット二井田真中
<http://www15.plala.or.jp/niida17hp/>
- 5 水土里ネット湯沢中央
<http://www14.plala.or.jp/midorinet-yuzawa/index.htm>
- 6 水土里ネット天王
<http://www.tendokai.or.jp/>
- 7 水土里ネット新城川
<http://www.shinjougawa.or.jp/>
- 8 水土里ネット山田五ヶ村
<http://www.yutopia.or.jp/~yamada5>
- 9 水土里ネット岩崎弁天
<http://www.k3.dion.ne.jp/~iwaben/>
- 10 水土里ネットうかわ
<http://www.ukawa-tokai.com/>
- 11 水土里ネットうご
<http://www16.plala.or.jp/midorinet-ugo/index.htm>



秋田県の 疏水紹介

■水土里ネット秋田
<http://homepage2.nifty.com/akidoren/akita/index.html>



■全国水土里ネット
<http://www.inakajin.or.jp/sosui/index.html>



■(社)農業農村整備情報総合センター
<http://suido-ishizue.jp/>

感想をお聞かせください。

「大地の恵み」は、皆さんの声を反映した情報誌にしたいと考えています。皆さんのご意見・ご感想をお待ちしております。

- ①「大地の恵み」の内容に対する意見・感想
- ②秋田の農業や農村に関わる意見・感想

■あて先 〒010-0967 秋田市高陽幸町3-37
水土里ネット秋田内 地球人会議事務局
TEL 018-888-2742 FAX.018-888-2834
E-mail:akidoren@nifty.com

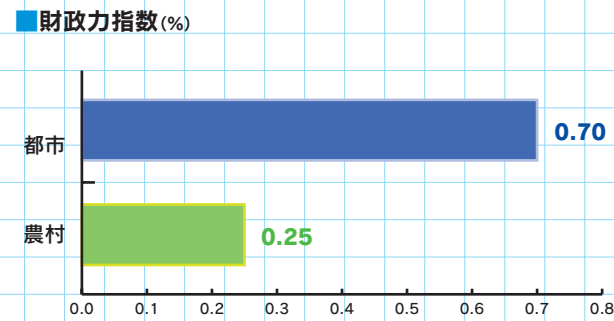


データで見る都市と農村

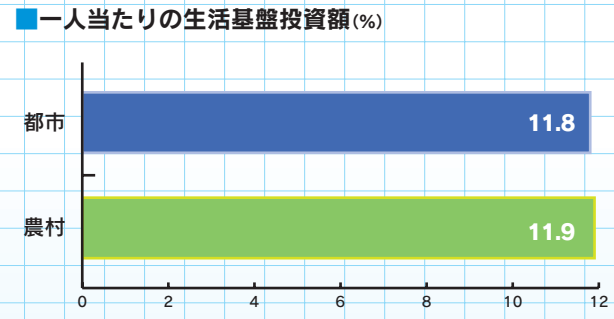
都市と農村の主要指標



行政/生活・経済基盤

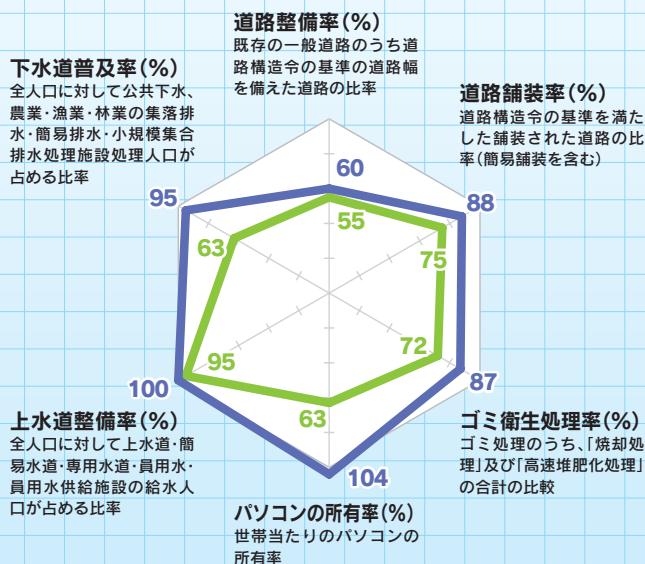


※財政力指数とは、地方自治体の基準財政収入額を基準財政需要額で除した指標。
資料:総務省「平成18年度社会生活統計指標」



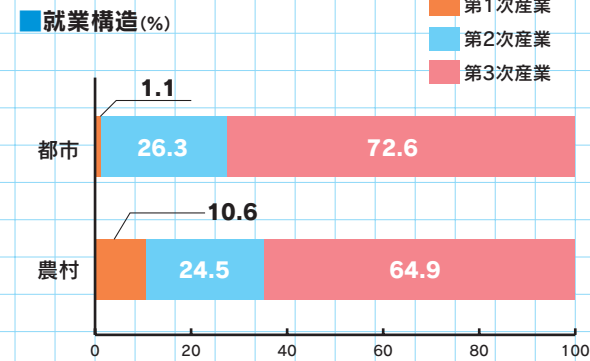
資料:総務省統計局「住民基本台帳人口」(平成13年)、総務省「行政投資統計」(平成13年)

■社会基盤等の整備率(万円/人)

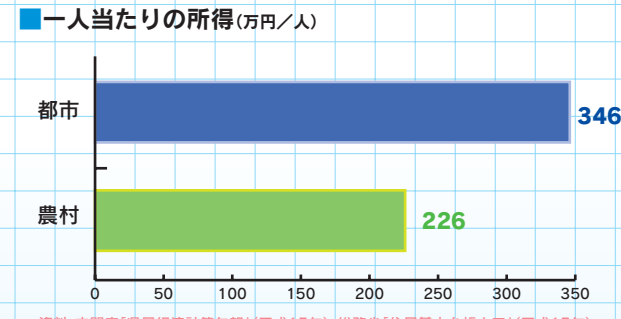


資料:総務省「国勢調査」(平成12年)、国土交通省「道路統計年報2006」、総務省「平成15年度公共施設状況調査」、朝日新聞社編「民力2006年度版」、国土交通省「農林水産省・環境省「平成17年度末汚水処理人口普及状況について」、厚生労働省「平成17年度水道統計」

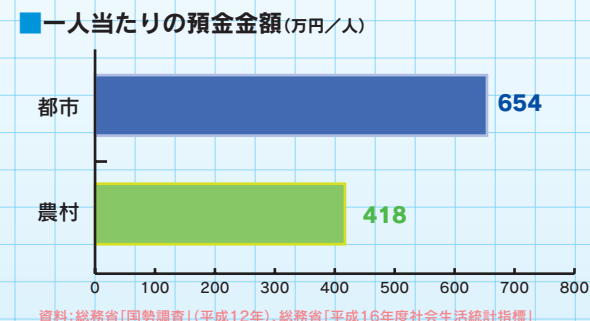
経済



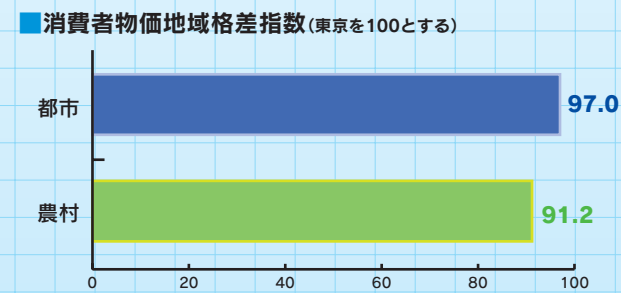
資料:総務省「平成14年度就業構造基本調査」



資料:内閣府「国民経済計算年報」(平成15年)、総務省「住民基本台帳人口」(平成15年)

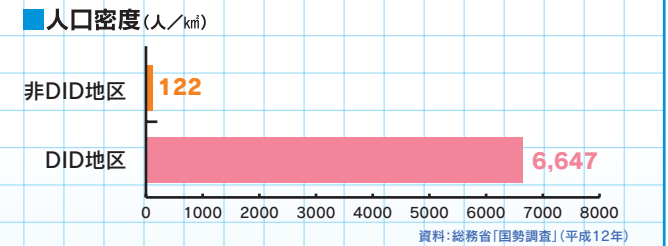
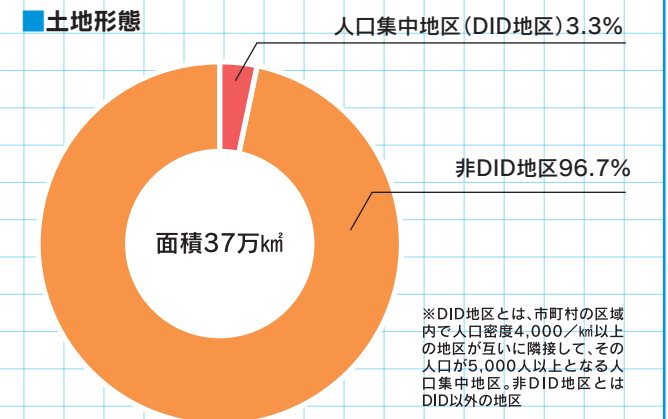


資料:総務省「国勢調査」(平成12年)、総務省「平成16年度社会生活統計指標」



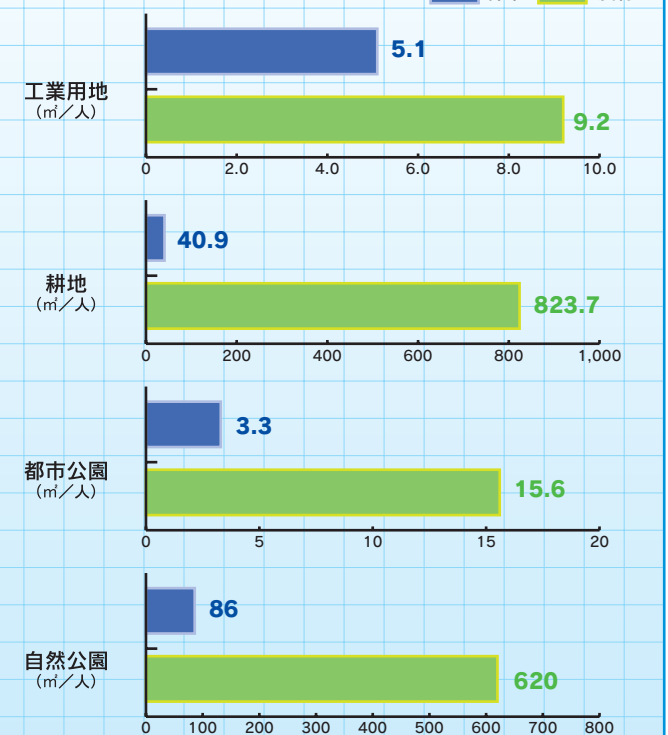
資料:総務省「消費者物価指数年報」(平成17年)

土地/人口



資料:総務省「国勢調査」(平成12年)

■土地利用



資料:総務省「平成18年度社会生活統計指標」、総務省「平成15年公共施設状況調査」、経済産業省「平成16年工業統計表」、農林水産省「耕地及び作付面積集計」(平成16年) ※データを平成16年度に統一(但し、都市公園のみは平成15年度)



あなたの声が“原動力”! 一緒に活動に参加しませんか。

【食料】

我が国の食料自給率は40%。もし、輸入農産物がなかったら…。
食料自給率の向上は、私たち一人ひとりの課題です。

【環境】

「水」、「土」、「里」は私たちが生きるために必要です。
今、安全・安心なものはどれですか？

【ふるさと】

緑豊かな田園。心の豊かさと安らぎ、そして人間らしさ…。
あなたは、子供たちに何を伝えますか。



「たがやす」第6回写真コンクール入賞作品

「あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」は、
安全な食料の確保のため、環境に優しい社会の創造のため、そして
緑豊かなふるさとを子供たちに引き継ぐため、みんなで考え、
発言し、行動する組織です。一人ひとりの力が活動の原動力です。
みなさんの参加をお待ちしております。

地球人会議の活動内容

- ① シンポジウムやセミナー等の開催と参加
- ② パンフレットや情報誌等の発行
- ③ アンケート調査等による会員との意見交換
- ④ インターネット等を活用した会員との情報交換

（お願い）

情報誌「大地の恵み」は、年1回会員の方々に配布しています。住居変更
があった場合、情報誌の配布を希望しない方は、お手数ですが事務局まで
ご連絡ください。



この印刷物は地球にやさしい大豆油インキで
印刷されています。



古紙配合率100%再生紙を使用しています。